

第2回文翔館周辺エリアウォーク基本構想検討会議(概要)

1. 開催日：令和8年1月26日（月）（村山総合支庁講堂）
2. 出席者：山形大学 工学部建築デザイン学科 佐藤教授
東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科 加藤専任講師
山形商工会議所 木村専務理事
山形警察署 花輪交通官
山形市まちづくり政策部 樫尾都市政策調整監
村山総合支庁建設部 田中建設部長
3. 議事内容
基本構想（素案）について → 了承
4. 主な意見等
 - ① キャッチフレーズについて
キャッチフレーズの考え方はどうか。
⇒ 県市の若手職員で構成したワーキングチームで検討。自らの足で歩いて発見する日常の豊かさを表現し、市民のライフスタイルそのものを「色づける」という思いを込めた。
 - ② 社会実験の影響について
社会実験（山形市役所前道路の南進車線閉鎖等）での交通への影響はあったか
⇒ 社会実験では、周辺道路の交通量に大きな変化は見られず、新たな渋滞は確認できなかった。大きな影響はなかったと判断している。
 - ③ 文翔館前敷地と歩道の境界について
柵は県政発祥の地を構成する重要な要素であり、歴史的景観の保全・継承も大切。広場と歩道のつながりは、視覚的な壁となる植栽の剪定による対応でよい。境界部の植栽等について管理も課題だと思う。
⇒ 文化財としての価値を考慮し、物理的な形状変更ではなく植栽等を整えることによる「視覚的なつながり」を重視する方針で具体化していく。
 - ④ 裁判所敷地の活用について
今後の活用について、裁判所や国と調整しているか。
⇒ 裁判所へ情報提供を行っているが、裁判所の今後の活用方針について、情報は得られていない。引き続き情報収集に努める。